



**PUBLIC (公開)**

SAP BusinessObjects BI プラットフォーム

ドキュメントバージョン: 4.2 – 2015/11/13

## レポート変換ツールを使用した変換に関する推奨事項

# 目次

<b>1</b>	ドキュメント履歴.....	<b>3</b>
<b>2</b>	このドキュメントについて.....	<b>4</b>
<b>3</b>	変換計画: チェックリスト.....	<b>5</b>
3.1	Desktop Intelligence から Web Intelligence への変換ワークフロー.....	6
3.2	レポート機能: バージョン間ビュー.....	9
3.3	レポート変換ツール使用の前提条件.....	9
<b>4</b>	変換ステップ.....	<b>11</b>
<b>5</b>	ヒントと推奨事項.....	<b>12</b>
<b>6</b>	役に立つリンク.....	<b>13</b>

# 1 ドキュメント履歴

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.2	2015 年 11 月	ブランド変更によりガイドを更新しました。

## 2 このドキュメントについて

Desktop Intelligence レポートの Web Intelligence への変換を検討していますか？あるいは、BI データを XI 3.1 または XI R2 BusinessObjects Enterprise バージョンから Business Intelligence (BI) プラットフォーム 4.x にアップグレードすることを計画していますか？

変換を計画中である場合でも、すでにプロセスを開始している場合でも、このドキュメントは効率的な変換を成功させるためのヒントを提供します。

このドキュメントに含まれる情報は、以下に役立ちます。

- 時間とリソースを最適化して変換を効果的に計画し、希望する成果を達成します。
- 変換プロセスの高レベルのエンドツーエンドワークフローを把握し、プロセスにおける重要な手順を見落とさないようにします。

## 3 変換計画: チェックリスト

このトピックでは、ニーズに従って変換を慎重に計画するために不可欠なチェックリストが提供されます。変換を開始する前に、下記の要件を確認してください。

### 1. ユーザに対する変換の影響の分析:

Desktop Intelligence は使用されなくなります。Desktop Intelligence の使用を中止することによる影響を評価します。Web Intelligence への変換では、レポートのリワークも必要になる可能性があります。

最も頻繁に使用される Desktop Intelligence レポート、および最も重要な Desktop Intelligence レポートの課題を明らかにします。Web Intelligence によって、実際にこれらの課題を解決できるのかを確認します。

Desktop Intelligence から Web Intelligence への移行プロジェクトに関与するユーザの関与度および役割を記述します。これには、開発者、BI プロジェクト責任者、レポート作成者、BI アナリスト、業務部門のエンドユーザ、外部のスタッフなどが含まれます。

### 2. Desktop Intelligence と Web Intelligence でサポートされる機能の相対調査の実施

変換の影響を受ける可能性がある、広く使用されている Desktop Intelligence 機能 (SQL 文の直接入力、グループ化、VBA など) に関する情報を収集します。また、Web Intelligence 機能をサポートすることによる、特定のニーズに関するメリットについても調査します。

機能については、以下のようなシナリオが考えられます。

- Desktop Intelligence 機能が Web Intelligence で完全にサポートされる
- Desktop Intelligence 機能が Web Intelligence で一部サポートされる (さまざまな次善策やワークフローを使用)
- Desktop Intelligence 機能が Web Intelligence でサポートされない (廃止される)
- Desktop Intelligence には存在せず、特定のニーズについてメリットとなりうる新機能が Web Intelligence でサポートされる

Desktop Intelligence と Web Intelligence の完全かつ詳細な比較、Web Intelligence で廃止される機能と新機能、およびヒントと次善策については、リンク <http://wiki.sdn.sap.com/wiki/display/BOBJ/Conversion+from+Desktop+Intelligence+to+Web+Intelligence> を参照してください。

### 3. 現在の BusinessObjects 環境の確認

- BI プラットフォーム/BOE (CMS) のバージョンを確認し、適切な移行パスを特定します。新しいシステムには追加手順不要のアップグレードパスがありますが、古いシステム (BO5、6、XI、XIR2、XI 3.1 など) では追加の手順が必要となる場合があります。

### 4. CMS におけるレポートの整理と変換のためのドキュメントのグループ化

この機会を生かしてレポートを整理し、変換またはアップグレードに必要なレポートのみを選択します。

- 重要性、有用性、または冗長性に基づいてソースドキュメントを分類します。ソース CMS で使用されていないレポートを特定し、それらをアーカイブします。
- Desktop Intelligence (.rep) レポートを、変換前にチャックにグループ化します。たとえば、部門ベースのレポート変換 (財務、販売、IT、マーケティングなど) があります。

### 5. 変換前におけるソースドキュメントバッチのサイズの検討

- ドキュメントは、100 未満のバッチで変換することをお勧めします。必要に応じ、変換前に大きなドキュメントのデータを消去します。

### 6. 変換後に必要なリワークのレベル評価

- レポート変換ツールを使用して変換結果を確認し（部分的に変換されたレポートの場合は監査ログファイルを使用し、完全に変換されたレポートの場合はデルタビューア（レポート比較ツール）を使用）、必要なリワークの量を評価します。評価は、「リワークなし」、「多くのリワーク」、「ある程度のリワーク」、および「レポートの再作成が必要」に分類します。

この評価をレポートのグループに対して実行すると、すべてのプロジェクトを Web Intelligence に変換することがどの程度実現可能か、的確に把握することができます。

#### 7. ユーザトレーニングの必要性の特定

- トレーニング要件についてユーザおよびすべての関係者と協議し、レポート変換後の Web Intelligence 環境に関する実用的な知識を提供します。
- 有用なリソースとして、SDN フォーラム、クラスルームトレーニングセッション、および e ラーニングコースを使用します。

要件に関する情報を収集した後、自分の状況が次のうちどれに最も近いかを考察します。

- プロセスまたはリソースに問題があるため、Web Intelligence にコンテンツを移行しません。
- 機能が不足しているため、Web Intelligence にコンテンツを移行しません。
- プロジェクトの一部または大部分を Web Intelligence に移行中ですが、多くの Desktop Intelligence レポートは引き続き使用されます。
- すべてのプロジェクトを Web Intelligence に移行中であり、Desktop Intelligence の使用を中止します。
- Web Intelligence への移行を完了し、Desktop Intelligence レポートは使用されていません。

## 関連情報

[移行パス \[6 ページ\]](#)

[レポート機能: バージョン間ビュー \[9 ページ\]](#)

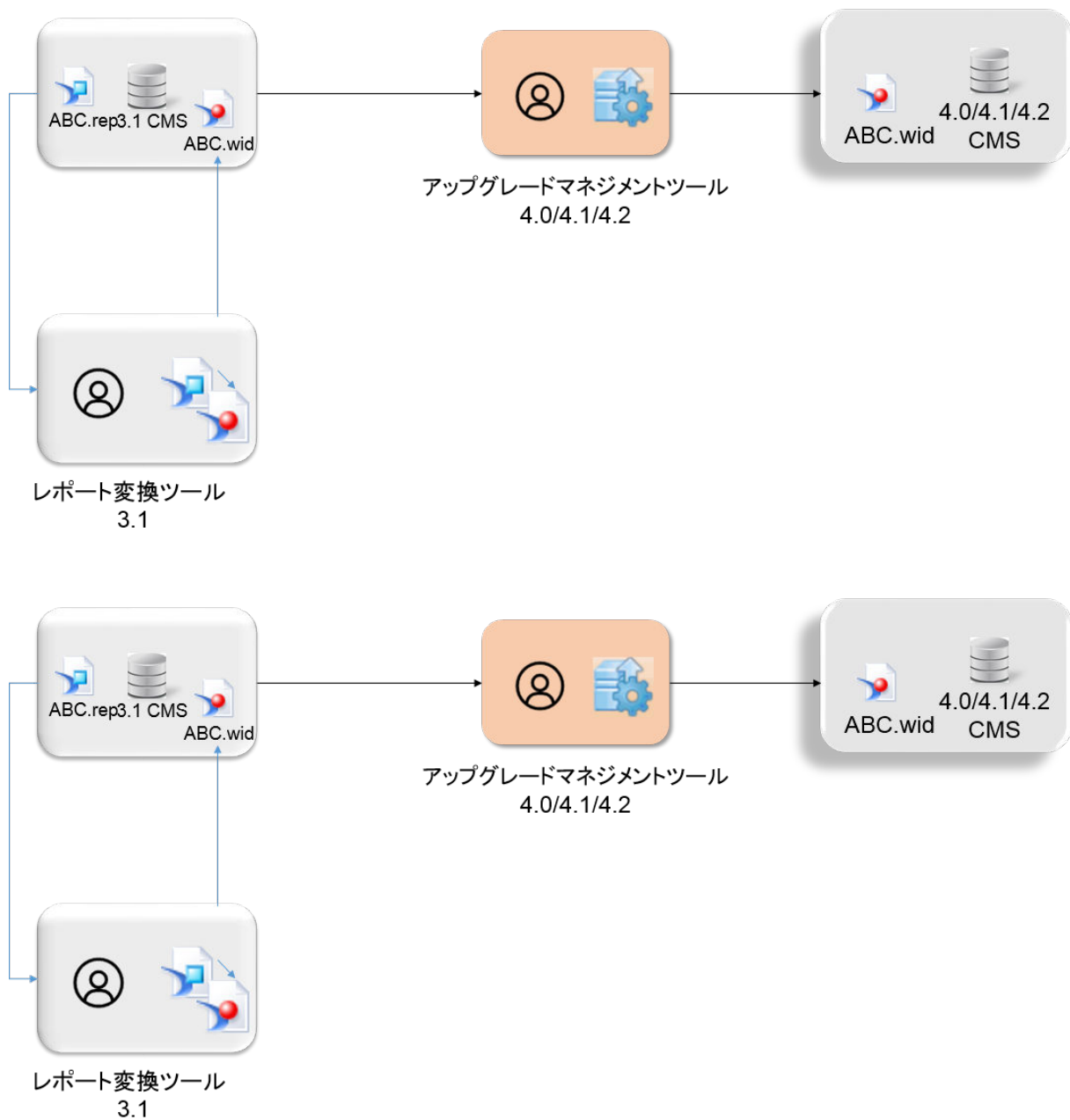
[レポート変換ツールのスタンドアロンモードでの使用: 必要な知識 \[9 ページ\]](#)

## 3.1 Desktop Intelligence から Web Intelligence への変換ワークフロー

この章では、ソースおよびターゲットの CMS システムのバージョンに基づいて適用できる、Desktop Intelligence レポートから Web Intelligence への変換パスについて説明します。

**1つ目のパス** (下の最初の 2 つの図で示します)

1. XI 3.x または XI R2 CMS システムの Desktop Intelligence (.rep) レポートを、XI 3.x または XI R2 レポート変換ツールを使用して、同じスタックの Web Intelligence (.wid) に変換します。
2. 次に、アップグレードマネジメントツールを使用して Web Intelligence レポートをアップグレードし、BI 4.0、4.1、または BI 4.2 CMS に公開します。



## 2つ目のパス (下の図で示します)

XI 3.x または XI R2 CMS システムの Desktop Intelligence (.rep) レポートを、レポート変換ツール (4.0、4.1、または 4.2) を使用して Web Intelligence (.wid) に変換し、BI 4.0、4.1、または BI 4.2 CMS システム (ターゲット) に公開します。ソースレポートの依存関係はターゲットに移動しません。このパスでは、アップグレード管理ツールは使用しません。

### i 注記

管理者の個人用ドキュメントを XI R2 ソースから変換する場合は、変換前にアップグレード管理ツールを使用して、ユーザフォルダと個人用フォルダを移行しておくことをお勧めします。



### i 注記

この変換シナリオでは、依存関係がアップグレードマネジメントツールを使用してターゲット CMS に移行されていないため、変換されたレポート (ABC.wid) は最新表示できません。

### 3 つ目のパス (下の図で示します)

1. 最初に、XI 3.x または XI R2 の Desktop Intelligence レポートとそれらの依存関係 (フォルダ、オブジェクト、ユニバース、接続など) を、4.2 アップグレードマネジメントツールを使用して BI 4.2 CMS に移行します。
2. 次に、4.2 レポート変換ツールを使用して Desktop Intelligence レポート (.rep) を Web Intelligence (.wid) に変換し、4.2 CMS に公開します。





#### i 注記

ソースの Desktop Intelligence レポートは、BI 4.1 CMS システムに置くことができます。上記の変換アプローチでは、Desktop Intelligence (ソース) レポートと Web Intelligence (変換後) レポートを同じターゲット CMS に置くことができるため、Web Intelligence ではまだ提供されていない Desktop Intelligence 機能を使用できるという利点があります。

#### i 注記

上の図にある BI 4.2 CMS および BI 4.2 ツールに適用されるすべての情報は、BI 4.2 にも同様に適用されます。

## 3.2 レポート機能: バージョン間ビュー

下の表は、さまざまなリリースバージョンの Web Intelligence でサポートされる一般的な Desktop Intelligence 機能の一部を示しています。

Desktop Intelligence Feature	Web Intelligence Release				
	XIR2	XI 3.0	XI 3.1	XI 3.1 SP2	BI 4.0
Edit SQL	✓	✓	✓	✓	✓
Offline Capability		✓	✓	✓	✓
Personal Data Providers		✓	✓	✓	✓
MultiCube (ForceMerge) Function		✓	✓	✓	✓
Document Autosave and Recovery			✓	✓	✓
Support Large Datasets			✓	✓	✓
Query on Query				✓	✓
Fold / Unfold				✓	✓
Input Controls				✓	✓
Fit to page					✓
Show/Hide					✓

## 3.3 レポート変換ツール使用の前提条件

レポート変換ツールは、接続モードまたはスタンドアロンモードで使します。

接続モードでは、ツールはソースおよび出力先の CMS マシンに接続されます。スタンドアロンモードでは、レポート変換ツールは CMS に接続されないため、セキュリティ対策は実行されません。CMS との間でドキュメントのインポートまたは

エクスポートは実行できません。保護されていないローカルドキュメントおよびユニバースのみを使用します。"ローカル"とは、コンピュータのハードディスクに保存されているということです。ネットワークサーバは含まれません。

Desktop Intelligence レポートをレポート変換ツールのスタンドアロンモードで WebI に変換する場合、.rep (Desktop Intelligence) レポートおよび関連するユニバースの保護を解除していることを確認してください。この処理を行わないと、レポートが正常に変換されません。

1. スタンドアロン認証モードのレポート変換ツールで変換する "ローカル" Desktop Intelligence ドキュメント (.rep) のいずれか 1 つを選択します。同じドキュメントを "スタンドアロン" 認証モードの Desktop Intelligence クライアントで最新表示しようとすると、ドキュメントが最新表示されません。この問題を解決するには、次の手順に従います。

Designer を使用して、関連するユニバースをドキュメントにインポートします。

ドキュメントについて、[名前を付けて保存] を選択し、[すべてのユーザ用に保存] オプションをチェックします。ユニバースで使用される接続が "セキュリティ" 接続であるため、保存が許可されない可能性があります。この場合は、同じ接続を "共有" モードで作成します。

作成したこの共有接続をインポートされたユニバースと関連付け、[すべてのユーザ用に保存] オプションを選択してユニバースを保存します。これにより、ユニバースの保護が解除されます。

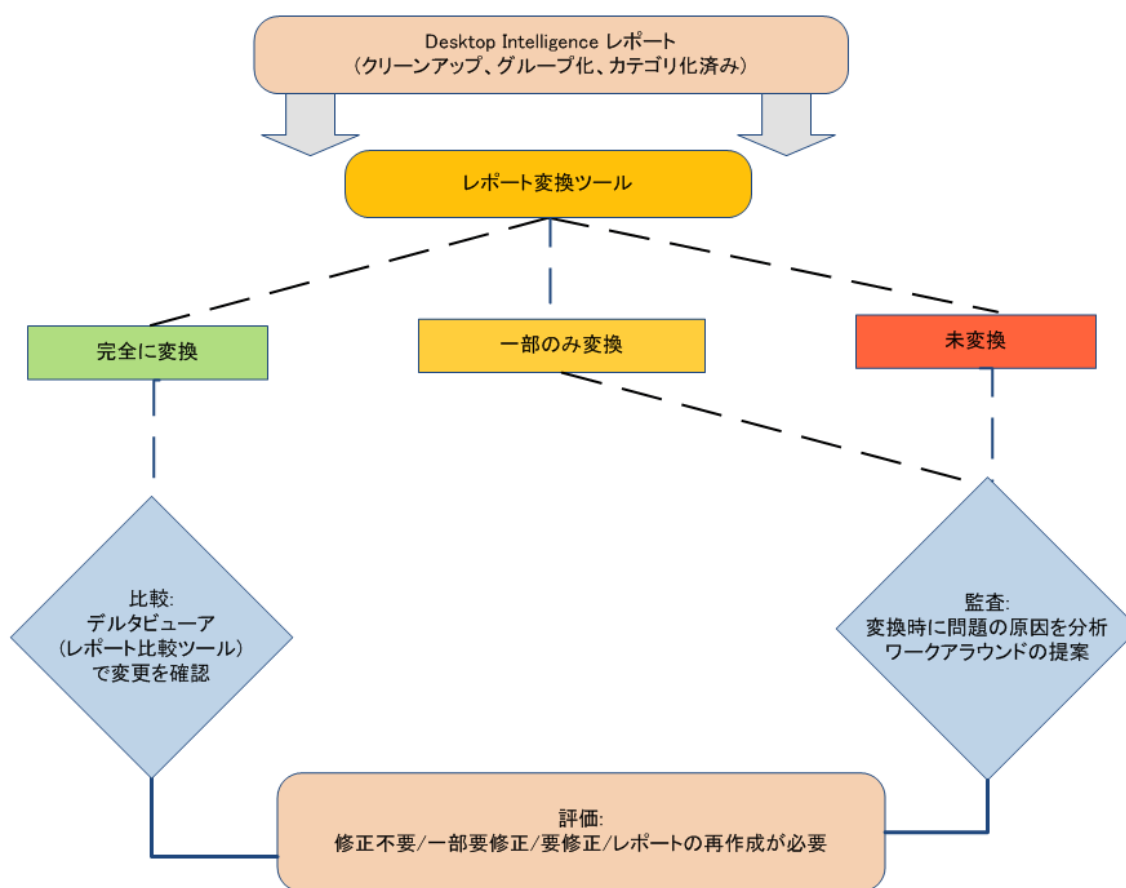
[すべてのユーザ用に保存] オプションを選択してドキュメントを保存し、ドキュメントの保護を解除します。

2. Desktop Intelligence クライアントでドキュメントを最新表示します。最新表示が機能するはずです。
3. レポート変換ツールを使用して、ローカルドキュメントを変換します。

## 4 変換ステップ

以下では、Desktop Intelligence から Web Intelligence への変換プロセス全体の手順が幅広く定義されています。

1. さまざまな業務部門のドキュメントと、それらの優先度の一覧を取得します。
2. レポート変換ツールを使用して、変換を実行します。
3. 変換結果とログを確認します。
4. 各ドキュメントのリワークのレベルを見積もります。



5. 評価に基づいてリワークを処理します。完全に変換されたレポートに対して必要な手動のチェックを実行し、それらのレポートが想定どおりに最新表示されているかを確認します。
6. チェックプロセスにビジネスオーナーを参加させます。完全に変換されたドキュメントは、ユーザアクセプタンステストのため品質プラットフォームに移行されます。チェックが失敗した場合、ドキュメントは変換チームに送り返されます。
7. 各業務部門のドキュメント一覧を完成させ、パッケージを SAP BusinessObjects 移行チームに提供します。

## 5 ヒントと推奨事項

1. リポジトリの Desktop Intelligence レポートを監査します。
  - レポートの使用方法和ユーザに基づいてレポートを区別します。
  - すべての Desktop Intelligence レポートを変換する必要があるわけではありません。
2. エンドユーザシステムにパーソナライズされた Desktop Intelligence ドキュメントが大量にあるシナリオでは、ドキュメントの変換方法についてエンドユーザを教育します。
3. Desktop Intelligence レポートのインスタンスを Web Intelligence に変換できます。
  - インスタンス数によっては変換時間が長くなり、元のレポートの変更に時間がかかることが原因で失敗する可能性があるため、変換する必要があるインスタンス数を評価します。
4. レポート変換プロセスを監査することをお勧めします。
5. Desktop Intelligence レポートが置換される可能性があるため、次を評価します。
  - SAP Lumira
  - SAP BusinessObjects Dashboards (Xcelsius)
  - SAP BusinessObjects Explorer



## 6 役に立つリンク

- Desktop Intelligence から Web Intelligence に移行する正当な理由があるかどうか、確信が持てない場合は、<http://www.sdn.sap.com/irj/boc/index?rid=/library/uuid/b0caa27d-13f2-2c10-02aa-fa464185ca66> をお読みください。
- Web Intelligence の機能および拡張機能サポートの範囲について知りたい場合は、<http://wiki.sdn.sap.com/wiki/display/BOBJ/Deski+and+Webi++scope+of+features> をご覧ください。
- 会社が Desktop Intelligence から Web Intelligence に移行する方法について理解するには、<http://www.sdn.sap.com/irj/boc/index?rid=/library/uuid/40eb2b57-8f0d-2d10-69b5-b1a52ba4b5e3> の情報をお読みください。
- Web Intelligence への Desktop Intelligence 変換の計画については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-41571> をお読みください。
- Desktop Intelligence Compatibility Pack (DCP) に関するよくある質問については、<http://scn.sap.com/docs/DOC-43592> をお読みください。
- SAP BI アップグレードの詳細については、<http://www.sapbusinessobjectsbi.com/> をお読みください。

# 重要免責事項および法的情報

## ハイパーリンク

リンクの一部は、アイコンやマウスオーバーテキストで分類されています。これらのリンクから、追加の情報を得ることができます。アイコンについて。

-  このアイコンが付いたリンク: SAP がホストしているものではない Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り) 以下のことに同意することになります。
  - リンク先のサイトのコンテンツが SAP のドキュメンテーションではないこと。お客様は、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできません。
  - SAP が、リンク先のサイトのコンテンツについて同意することも反対することもなく、また SAP がその利用可能性や正確性について保証しないこと。SAP は、かかるコンテンツの使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。
-  このアイコンが付いたリンク: 当該の特定の SAP 製品又はサービスのドキュメンテーションから離れ、SAP がホストしている Web サイトに移動します。これらのリンクを使用することで、お客様は (お客様と SAP との契約書に別段の明示的な記載がない限り)、この情報に基づいて SAP に対する製品クレームを推断することはできないことに同意します。

## ベータおよびその他の試験的機能

試験的機能は、SAP が将来のリリースを保証する正式に提供される機能の範囲外です。これは、試験的機能は、SAP により通知なく理由の如何を問わず随時変更される場合があることを意味します。試験的機能は、本稼働使用のためのものではありません。お客様は、試験的機能を実際の運用環境で、又は十分なバックアップがとられていないデータとともに、デモンストレーション、テスト、試験、評価その他の方法で使用してはなりません。

試験的機能の目的は、早期にフィードバックを得ることで、それに応じて顧客の皆様やパートナーが将来の製品に影響を与えることを可能にすることです。SAP コミュニティなどにおいてフィードバックを提供することで、お客様は、投稿物や二次的著作物の知的財産権が SAP の独占的所有物であり続けることを承認することになります。

## コード例

ソフトウェアのコーディングやコードスニペットはすべて、例です。それらは、本稼働使用のためのものではありません。コード例は、構文や表現規則を分かりやすく説明し視覚化することのみを目的としています。SAP は、コード例の正確性や完全性について保証しません。SAP は、コード例の使用により発生した過誤や損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、損害に対して一切責任を負いません。

## 性別関連の文言

SAP は、一方の性に特化した語形や記述を用いないようにしています。文脈や読みやすさのために適切な場合、SAP ではすべての性別を指すために男性形の語句を使用する場合があります。



© 2018 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。

SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなして、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<https://www.sap.com/japan/about/legal/trademark.html> をご覧ください。